

平成25年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	殺菌短木ほだ木きのご栽培実証事業
事業主体 (連絡先)	小谷村 (観光振興課特産推進室 0261-82-2589)
事業区分	(6) 産業振興及び雇用拡大に関する事業 イ 農業の振興と農山村づくり
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,423,255円 (うち支援金: 561,000円)

事業内容

栽培者の高齢化により出荷・販売量が年々減少し、発生時期が一時期に集中するなど栽培・販売面での課題が生じている小谷村の特産品である「きのご」について、従来のほだ木(1m以上)と比べ短く(17cm程)、軽量で負担も軽い「殺菌短木ほだ木」による新たな品種(やまぶしたけ、ぶなほりたけ(柔らかい品種))の栽培を3箇所、発生時期集中対策と南北に長く標高差のある小谷村での栽培を検証するため標高差栽培を4箇所を実施。



【栽培状況】

自己評価(事業実施率) 【 A 】

事業効果

・新品種栽培として取組んだ「やまぶしたけ」の発生状況が良好で(ほだ木1本あたり164.9g収穫)、2年目以降の発生と新たな特産きのごとして期待がもてる結果となった。

・標高差栽培により、きのご発生時期の傾向を検証。一般的にきのごは気温18℃以下になると発生環境が整うと言われているため、気温低下の時期が早い、標高の高い地点ほど発生が早いと考えられる。今回の標高差は栽培地④と③で250m、栽培地③と②で300m、栽培地②と①で263mであり(栽培地④と①では813m)、各栽培地間で1週間から10日程発生がずれることを期待しており、栽培結果として代表的な品種でみると「なめこ・・・栽培地④9/8発生、栽培地②10/7発生、栽培地①11/3発生」「むきたけ・・・栽培地③10/1発生、栽培地②10/29発生」「くりたけ・・・栽培地③9/9発生、栽培地②10/4発生、栽培地①10/21発生」といった状況で標高差による発生時期のずれが実証できた。

・高齢化等によるきのご栽培者の減少対策と女性、若年栽培者の確保として、平成24年度48人(内50歳以下2人)・2栽培グループを平成29年度目標50人(内50歳以下5人)・3栽培グループとしていたところ、本取組などで平成25年度実績として、50歳以下の新規栽培者が2人増え、若年栽培者を確保することができた。

【目標・ねらい】

- 「きのご殺菌短木ほだ木栽培」による新たなきのご品種の栽培振興。
- 標高差によるきのご発生時期検証と応用による栽培振興。
- 高齢化等によるきのご栽培者減少対策と女性、若年栽培者の確保。

自己評価(事業効果) 【 B 】

今後の取り組み

・平成25年は夏場の高温など気象状況から全般にきのごが不作の年で、本栽培についても影響を受けたが、2年目・3年目の発生に期待し平成26年度以降も検証を継続する。

・「やまぶしたけ」など新たな特産きのごとして有望な品種について、栽培振興をすすめる。

・標高差栽培により貴重な基礎データを得ることができたため、この発生時期のずれを応用し、発生時期集中対策と、より長い期間きのごを収穫・販売できるよう栽培振興をすすめる。